

# 解答編

## 英語

1

**解答** 全訳下線部(1)・(2)参照。

### ◆全訳◆

#### ＜音楽が感情に与える影響＞

芸術や音楽は脳の右半球で、言語や数学は左半球で処理しているという、昔からある単純に割り切った考え方とは逆に、最近わかったことによると、音楽は脳全体に割り当てられているということだ。脳に損傷のある人たちの調査を通じて、新聞を読む能力は失ったが、それでも楽譜は読めるという患者、あるいはピアノは弾けるが自分のセーターのボタンを留めることができない人たちが私たちは見てきた。<sup>(1)</sup>音楽を聴いたり、演奏したり、作曲したりすることは、私たちがこれまで確認した、脳のほぼすべての領域を使っている。この事実によって、音楽を聴くことで頭の他の部分を働かせるという主張、すなわちモーツァルトを1日20分聞けばもっと頭が良くなるという主張を説明できるだろうか。

感情をかき立てる音楽の力は、広告会社の幹部や映画製作者、軍司令官、そして母親たちに利用されている。広告主は、清涼飲料、ビール、ランニングシューズ、あるいは車を、競争相手の製品より魅力的に見せるために音楽を使っている。映画監督は、音楽がなければあいまになってしまうかもしれない場面でどういう気持ちになるべきかを伝えるために、また、特に劇的なところで観客の感情に影響を与えるために音楽を使う。<sup>(2)</sup>アクション映画の典型的な追跡シーンや、あるいは、ひとりぼっちの女性が暗くて古い大邸宅の階段を上がっていく場面に添えられているような音楽のことを考えてみるとよい。音楽は私たちの感情を操作するのに使われており、そして、私たちがこのようにさまざまな感情を経験させる音楽の力を、完全に楽しんでいるのではないとしても、受け入れる傾向にある。世界中

の母親たちが、想像できる限りの昔から、赤ん坊をなだめて寝かしつけたり、赤ん坊が泣く原因になっているものから気をそらせたりするために、優しい歌声を使ってきた。

### ◀解説▶

(1)＜第1文＞冒頭の Music は、listening, performance, composition の3つすべてにかかる。名詞だが、形容詞的に使われている。それぞれ「音楽を聴くこと」「音楽の演奏をすること」「音楽を作曲すること」の意で、ここまでが主語。動詞 engage は「～を動かす、機能させる」の意。目的語が nearly every area of the brain 「脳のほぼあらゆる領域」である。that は area を先行詞とする関係代名詞。we have identified 「私たちが確認し(てき)た、つきとめ(てき)た」に、so far 「これまでに、これまでのところ」がはさまれている。

＜第2文＞ Could が使われているのは可能性に対する疑念を控えめに表すため。日本語では can の場合とそれほど違いが出なくてもかまわない。account for ～「～を説明する」の目的語 claims は「主張」の意。日本語の「クレーム」はもっぱら「苦情」の意で使われるが、「要求」「権利」「主張」などの意味もあるので注意が必要。that 以下は claims の内容を述べる同格節。music listening 「音楽を聴くこと」が主語、exercises 「～を働かせる」が述語動詞、目的語が other parts of our minds 「私たちの頭の他の部分」である。次の that も同格節。

(2)＜前半＞ Think of ～「～のことを考えてみよ」という命令文。「考えてみるとよい」などと、書き言葉の言葉遣いらしく整える。目的語は a typical chase scene in an action film 「アクション映画の典型的な追跡の場面」と the music 「その音楽」の2つ。that は the music を先行詞とする関係代名詞。accompany ～「～に伴う、付随する」の目的語が a lone woman 「ひとりぼっちの女性」である。lone には「独身の」の意もあるが、ここでは「連れのいない」と広い意味で取っておく方がよさそうである。climbing the stairs in a dark old mansion 「暗く古い大邸宅の階段を上って行く」は woman を修飾する形容詞用法の現在分詞。映画に音楽が使われることを述べた箇所なので、「女性に伴う音楽」は「女性の場面に添えられる音楽」などと言葉を補うとわかりやすい。

＜後半＞ Music is being used 「音楽は使われている」の述語動詞は、進行

形の受動態。単なる受動態と同じような訳になるが、前述の場面で音楽が「そのとき流れている」ことを表すためであり、進行形を強調する「使われつつある」などとすると、かえって不自然である。to manipulate our emotions「私たちの感情を操作するために」は目的を表す副詞用法の不定詞。and we tend to accept「そして私たちは受け入れる傾向がある」の目的語は the power of music「音楽の力」である。to make us experience these different feelings「これらの異なった(=さまざまな)感情を私たちに体験させる」は feelings を修飾する形容詞用法の不定詞。挿入されている if not outright enjoy は even if we do not enjoy (the power) outright「(音楽の力を)完全に楽しんでいるのではないとしても」の意。「すっかり楽しんではいなくても受け入れる」というつながりである。

2

解答

設問1. 少々体がだるいくらいなら体の声を無視してトレーニングをし、激しい痛みがあるときは体の声を聞いて気をつけるということ。

設問2. ① her training was interrupted by a stress fracture

② What started as an ankle pain becomes knee and hip problems

設問3. 体の言うことに耳を傾けるということの解釈として、Asker Jeukendrup は、体の調子に関して考慮すべきことと無視しても良いことを見分け、限界を超えないように調整することが重要であると考えており、一方 Tom Fleming は、そのようなことは不可能であり、体の具合を気にしては自分ができることも達成できないと考えている。

## ◆全訳◆

〈「体に聞く」とはどういうことか〉

トライアスロンの選手である、『タイムズ』紙の私の同僚は、ある疑問を持っていた。自分の体の言うことに耳を傾けるとだれもが言うが、それは何に耳を傾けることになるのか、というものだ。ことはそれほどはっきりしたものではないことだとわかる。

マラソンのアメリカ記録保持者であるディーナ=カスターは、この助言を選択的に解釈している。「走ることはいつも気持ちのいいものであるとは限りません」と彼女は言う。「とても不快で辛い中走ったこともあります」そして、カスターは気分が乗らないときにも走ると付け加えた。「朝、

目覚ましが鳴って、自分で自分に疲れすぎていると言うことは何度もあります」と彼女は言った。しかし、体が告げるこうしたメッセージを無視してただ出かけ、走ったり、何か運動したりすれば、「そういう日は、もっとも自分を誇らしく思える日です」と彼女は言う。「体の言うことに耳を傾けるコツは、自分が何をやれるか知っておくということです。鋭い痛みがあれば、気をつけるべきです」

では、自分の体の言うことを聞くというのは、深刻なけがを知らせる痛みと無視できる痛みの違いを理解できるようになるということだろうか。そしてもしそうなら、なぜカスターのような選手が、何にせよ、ひどいけがをしてしまうのだろうか。昨年彼女は北京オリンピックのマラソンで5キロほど走ったところで足を骨折してしまった。その同じレースで、女子マラソンの世界記録保持者であるポーラ=ラドクリフの走りは彼女のベストに及ばなかったが、それは疲労骨折のせいで練習ができなくなってしまったためだ。

おそらく、問題は自分の体が何を訴えているのか理解するのが難しいということだろう。『自分の体の言うことを聞く』のはいつでも難しいことです」と、キース=ハンソンは言う。彼は、才能ある長距離走者を集め、彼らがフルタイムでトレーニングをする間、その支援をしているハンソン=ブルックス長距離走プロジェクトを指揮するコーチである。彼が指導しているランナーの一人、ブライアン=セルは北京オリンピックに出場し、他にも国際的な競争力を持った選手たちがいる。「走っても大丈夫なうずきや痛みもいくつかあります」とハンソン氏は言う。「そして、しばらく休む必要のあるものもあります。私はいつも、ひとつのカギとなる原則に従っています。つまり、10分走って足を引きずるようなら、それはけがであって単なるうずきや痛みではない、というものです。決してけがを押して走るべきではありません。そんなことをしたら、ほぼまちがいなくもっとひどい負傷になってしまいます。足首の痛みで始まったものが、ひざや臀部の問題になります」

他方で、「自分の体の言うことに耳を傾ける」ということにはもうひとつ違った解釈もある。イングランドのバーミンガム大学にある身体動作学研究室の室長であるアスカー=ジュケンドラップが指示している解釈だ。彼が言うには、「聞く、というのは、『価値ある情報』を求めて耳を傾け、

『頭に浮かぶかもしれないが実際には無関係な他の否定的情報』を無視できるようにすることです。たとえば、『ちょっとした疲労感』を切り捨てるのです。目標は、体を限界まで追い込むことであって、限界を超えることではない。これは、言うのは簡単だが行うのは難しい。「だれでもできるというわけではありません」

トム=フレミングは、「実際は、だれでもできるということはどうもなさそうです」と言う。フレミング氏はニューヨーク=マラソンで2回優勝しており、10代の若者から国内で上位に入るランナーまで数々の選手のコーチをしてきた。「私は自分の体の言うことに耳を傾けたことはありません」と彼は言う。「たぶんそうすべきだったのでしょう。ですから、今ここでははっきりさせましょう。私は、それはどだい無理な話だと思っています」

トレーニングをしていたとき、彼はトレーニング量を減らしたり、もっとゆっくりやることができなかったと言う。そして彼はこう付け加えた。「もし本当に体に耳を傾けたなら、自分にできることも達成できないでしょう」

### ◀ 解 説 ▶

設問1. 下線部(1)は「選択的に選んでその助言を解釈する」の意。「その助言」は、この文章のテーマでもある listen to your body「体の言うことを聞け」ということ。「選択的に選んで解釈する」とは、「体の言うことを聞くか聞かないか選んでどうするか決める」とことと考えられる。同段第5・6文には「朝起きて疲れていると感じることはよくあるが、無視して走れば満足感が得られる」とある。同段最終文には「激しい痛みがあれば、気をつけるべき」とあり、これは無理をしない、つまり走らないということだろう。こうした具体的内容をまとめる。

設問2. ①ラドクリフがベストな状態で走れなかった理由を述べている個所である。述語動詞は was だが、interrupted と by があることから、was interrupted by ~「~によってじゃまされた」となると考えられる。her training「彼女のトレーニング」を主語に、a stress fracture「疲労骨折」を by の目的語に使えば「彼女のトレーニングは疲労骨折にじゃまされた」と文脈に合う内容になる。

②直前に「決してけがを押して走るべきではない。そんなことをすれば、

ほぼまちがいがなくもっとひどい負傷になる」と述べられている。この文脈に沿う内容にすること。knee and hip problems「ひざや臀部の問題」と pain「痛み」が「けが」に関連するが、an ankle pain「足首の痛み」とすれば、けがの軽重がはっきりする。started が過去形なので、関係代名詞 what を使って what started as an ankle pain「足首の痛みとして始まったもの」を主語にし、becomes knee and hip problems「ひざや臀部の問題になる」とすれば、文脈に沿う内容になる。

設問3. Asker Jeukendrup の考えは第5段第3～最終文に述べられている。第3文では「聞くとは、『価値ある情報を求めて』耳を傾け、『無関係な他の否定的情報』を無視すること」とある。第5文には「目標は、体を限界まで追い込むことであって、限界を超えることではない」と述べられている。「考慮すべきことと無視すべきことを区別する」という点と、「限界を超えないように注意する」という点を解答に盛り込むこと。

Tom Fleming は自分の経験として第6段第3文で「自分の体の言うことに耳を傾けたことは一度もない」と述べ、同段最終文に「それは不可能だ」と述べている。また、最終段最終文で「もし体に耳を傾ければ、自分にできることも達成できない」とある。ポイントは、「体の声を聞くことは不可能である」ということと、「限界を超えるようにしなければ能力は伸ばせない」という2点である。

3

解答

設問1. 全訳下線部(1)・(2)参照。

設問2. (b)・(c) 設問3. a. in b. on c. of

### ◆ 全 訳 ◆

◀ 繊維の強度を生むもの ▶

私たちはみな、衣服というものにたいへん慣れてしまっているので、その驚嘆すべき特徴について立ち止まって不思議に思うことは決してない。だが、原綿のズボンとティッシュペーパーのシャツしか身につけずに1日過ごしてみることを想像してみればよい。20分もしないうちに、服はすぐ破れてしまうだろう。私たちの服はこうしたものと取り立てて違いはない素材でできているが、どういうわけか非常に丈夫で通常の摩擦や破れには何年も耐えられる。しかし、衣服の丈夫さがその素材に由来するだけではないとしたら、それはどこから生じているのだろう。

答えはねじりだ。これは今すぐ簡単に確かめられる技術である。ティッシュペーパーを取って約3センチ幅に長く裂いてみよう。それを引っ張ってみなさい。ティッシュペーパーがほとんど強度を持たないのは明らかだ。さて、最初と同じように、もうひとつ3センチ幅に裂いてほしい。<sup>(2)</sup>一方の端をある向きに、もう一方の端を反対の向きにひねって、まっすぐな1本のひもになるまでティッシュペーパーをねじってみよう。そうしたら、それを2つに折り、もう一度よじり合わせ、もっと太いひもにする。それを引っ張ってちぎってみよう。たぶん2つに引きちぎることはできないとわかるだろう。

ねじりという単純な行為で、もともとはとても弱いものから非常に強靱なものができるのである。強さの元は摩擦だ。各人が自分の前にいるパートナーの腰に手を回している人々が作る、2つの平行なコンガライン(ジグザグ行進)を想像してみよう。このコンガラインの強度は2つの最も弱い連結と同じだけの強さしかない。だれであれ、パートナーをつかむ力が最も弱い人のところで、まずその列が切れてしまう。こういうわけでティッシュペーパーはあんなに簡単にちぎれてしまうのだ。というのも、ティッシュペーパーは植物の繊維の平行なコンガラインでできた1枚のシートにすぎないからだ。今度はもっと複雑な2つのコンガラインを想像してみよう。左の列にいる人が右側の前方にいる人の腰に手を回し、右側の列の人は左側前方にいる人の腰にしがみついている。2列の端から端まで、一人一人がみんな腕を交差させて反対側の人にしがみついているのである。これなら、ひとりの人が手を放してもたいしたことはない。そうなくてもみんな腕で固定されているからだ。ねじりが、ある素材に施しているのはこういうことなのである。内側の繊維を互いの回りにしっかりと巻きつけているので、個々の2、3本の繊維が切れたとしても、まだ摩擦でひもの中にしっかりとつなぎとめられており、それで強度を保ち続けているのである。ねじりはたいへん効果的なので、比較的短い繊維でも織り合わせてどんな長さのひもにでもできる。

個々の繊維の摩擦が結果的にそんな強さになるとわかって、それほど驚くべきことではない。ともかく結び目ができるというのは、まさしく同じ原理に因るものである。つまり、互いに固定し合ってぎゅっと絞られるように個々の糸をうまく輪にして固定するということだからだ。(とても

つやつやした滑らかなひもは結ぶのが難しいのは、しっかりした結び目にしておだけの摩擦がないためだということに読者は気がつかれたかもしれない。) たいていの素材は、細かい繊維の表面のきめが粗いので、ぎゅっと絞られると、ジグソーパズルのピースのように、そこでこぼこのおかげでしっかりとまとまる。ねじりによって生じた摩擦は、構成する繊維の個々の強さに関係なく、非常に大きな強度を生むのである。

### ◀ 解 説 ▶

設問1. (1) be made from ~ 「~から作られている、できている」 anything particularly different from ~ 「~と特に異なったもの」は、通常は something が用いられるが、否定文なので anything になっている。these substances 「これらの物質」が直訳。直前の文の cotton wool 「原綿」と tissue paper 「ティッシュペーパー」のことを指しているので「これらの素材」などと訳語を選ぶ。yet は「それでもなお」の意の接続詞として使われている。able to withstand ~ 「~に耐えられる」は and がないので、being が省略された分詞構文と考えられるが、いずれにしても付帯状況であり、and able と同じ訳になる。normal wear and tear 「通常の摩擦や破れ」 withstand normal wear and tear とはすなわち「普段使いでは破れずにもつ」ということ。

(2) Turn 「ひねりなさい」と命令文である。目的語は one end 「一方の端」と the other end 「もう一方の端」の2つ。それぞれに one way 「ある方向に」と the other way 「反対の方向に」の副詞が続いている。twisting は付帯状況の分詞構文で and twist the tissue paper 「そしてそのティッシュペーパーをねじりなさい」の意。

設問2. 1つめの conga lines は直前より parallel 「平行」であり、その説明は同文(第3文)後半に each holding onto their companion's waist in front of them 「各人が自分の前にいるパートナーの腰に手を回している」とある。したがって、(c) 「平行する2列」の状態。2つめの conga lines は同文(第6文)のコロン以下に「左の列にいる人が右側の前方にいる人の腰に手を回し、右側の列の人は左側前方にいる人の腰にしがみついている」とある。つまり次の文(第3段第7文)にあるように「一人一人がみんな腕を交差させて反対側の人にしがみついている」状態なので、(b) 「かわるがわる交差している2つの列」になる。(a) 「1点で交差している2つ

の列」(d)「一方がねじれている2つの平行する列」

設問3. a. 「個々の繊維の摩擦がそのような強さという結果になりうる」とするのがふさわしい。result in ~ 「～という結果になる」のinを使う。result from ~ 「～から結果的に生じる」と区別すること。

b. 「結び目はすべて全く同じ原理に因る」とするのがふさわしい。rely on ~ 「～に頼る」だが、depend on ~ 「～に左右される、依存する」と同意で使っていると考えられる。

c. regardless of ~ 「～に関係なく」は知っておくべき表現である。

4

解答

設問1. After her parents passed away and her son got married and left her house, many of their belongings were left behind. They are precious remembrances of her family and she has too strong an attachment to them to throw them away. 41

設問2. She realized that what she should do was not throw things away but select what to keep. Once she chose the things that she could not do away with, she found it easy to decide what to discard and was finally able to start cleaning up her house. 48

## ◀ 解 説 ▶

設問1. 「経緯」は、第3文に述べられている。両親が亡くなり、息子が独立して、彼らの持ち物がそのまま残されたために、物があふれることになった。「捨てられない理由」は第6文の後半に述べられており、〈思い出の品であり、愛着、未練があるため〉である。

「わが家は、彼らが置いていった物たちであふれたまま」は「彼らの所有物の多くがあとに残された」などとすればよい。「思い出の染みた過去のものたち」は「大切な家族の思い出の品、形見」precious remembrances of her familyなどと表現できる。「～に愛着を感じる」はhave an attachment to ~, be attached to ~といった表現がある。「未練」も結局は「なかなか消えない愛着」lingering attachmentということになるので、訳し分ける必要はないだろう。「～を捨てる」はthrow away ~ (目的語が代名詞ならthrow ~ awayの順に), do away with ~, remove ~, discard ~など。同じ語句の反復は稚拙さを感じさせるので、できれば言い換える方がよい。

設問2. 「たどりついた解決策」は第7文に「『捨てる技術』ではなく、『遺す技術』を磨けばいい!」と述べられている。そのまま英訳してもよいが、「すべきことは、捨てることではなく、何を遺すか選ぶことだ」などと、意味を汲んだ意識をして、自分で表現しやすい文に仕立てればよい。「その結果どのようなことになったのか」は、第8・9文。「どうしても捨てられないものをより分けたら、何を捨てるか楽に決められるようになった」などと整理できる。ここまででもよいだろうが、最終文に「私は家の片付けに着手することになった」とあるので、「それでやっと家を片付け始めることができた」などと添えることができる。

## ■■■■■■ 講 評 ■■■■■■

2010年度の大問構成は、読解問題3題、英作文問題1題の計4題で、例年通り。試験時間は100分。

①は「音楽が感情に与える影響」を論じた文章で、設問は2カ所の英文和訳のみ。いずれも文の構造自体はそれほど複雑ではないが、わかりやすい日本語で表現するには、内容を十分理解して意識したり言葉を補ったりする必要がある。

②は、「『体に聞く』とはどういうことか」に関して、複数の人の経験や考えを紹介した文章。設問は内容説明、語句整序である。内容説明は本文中の該当する個所を見分け、述べるべきポイントをもれなくまとめる力が求められる。語句整序は、そこまでの文脈を考慮して組み立てる必要がある。

③は、「繊維の強度を生むもの」に関して、比喩を用いながら説明した文章。設問は、英文和訳、内容説明、空所補充。和訳は①と同様、文の構造自体は複雑ではないが、わかりやすい日本語にするのに工夫を要する。内容説明は、十分な内容理解が必要な設問であった。空所補充はすべて前置詞で、基本的な熟語や動詞の定番の表現。

④の英作文問題は、一連の日本語の文章について、英語でその内容説明をするもの。ある部分を単純に英語に訳せばよいわけではなく、内容を整理して表現する必要がある。

全体としては、記述量が多く、特に内容説明や英作文は、いずれも書く内容をまず自分でまとめなくてはならないので、100分の試験時間もそれほど余裕はないかもしれない。地道な準備が必要であるという点ではやや難だが、取り組みがいのある良問である。